

04 第一回 生活環境系国際シンポジウム 室内環境と健康・快適性予測に関する最新動向

九州大学総合理工学研究院 伊藤 一秀

- 【講演】 Sangjin Kim (韓国 全州大学 准教授) "都市ヒートアイランド現象の対策に関する研究"
 Taeyeon Kim (韓国 延世大学 准教授) "集合住宅団地の屋外環境解析と改善に関する研究"
 Jun-seok Park (韓国 漢陽大学 准教授) "韓国の住宅における伝統的開口を用いた自然換気特性"
 飯塚 悟 (名古屋大学大学院 環境学研究所 准教授) "ライフサイクルエネルギー管理のためのCFDと空調システムシミュレーションの連成"
 白石 靖幸 (北九州市立大学 国際環境工学部 准教授) "八重山・竹富島におけるパッシブ環境制御手法に関する研究"
 馬 昌珍 (福岡女子大学 人間環境学研究科 准教授) "一般家庭における室内大気環境"
 伊藤 一秀 (九州大学大学院 総合理工学研究院 准教授) "室内環境中での帯電微粒子輸送とバイオエアロゾルとの二次反応"

室内空間にて九割以上の時間を過ごすといわれる現代社会において、建築により形成される室内空間の良否がQOL (Quality of Life) に与える影響は甚大です。室内環境性能は健康や快適性に影響を与えると共に、執務者・居住者の知的生産性にも大きな影響を与えることが示唆されており、適切な室内環境の創造が強く求められています。

本シンポジウムは、九州大学、福岡女子大学ならびに韓国に主要大学の研究者を中心として、室内環境設計と健康、快適性予測に関する研究の最新成果を紹介し、国際的な技術・情報の交流を図ることを目的として企画したものです。

2009年6月27日の、九州大学筑紫キャンパスにおけるシンポジウムでは、室内空気環境、熱環境、快適性予測から屋外環境、ヒートアイランド現象の予測と緩和対策まで、幅広いテーマにて研究発表が行われ、



永島先生ご挨拶

会場の学生、若手研究者を交えて様々なディスカッションが行われました。

また九州大学、福岡女子大学の若手研究者、学生を中心に48名の参加者があり、大変盛況のうちに終了しました。



馬先生のご講演

05 「元素相乗系化合物の化学」第4回若手国際シンポジウム

九州大学先端物質化学研究所 永島 英夫

【口頭発表】 全14件
 【ポスター発表】 全24件

本シンポジウムは特定領域研究「元素相乗系化合物の化学」が主催するシンポジウムであり、年に一度、国内およびアジアの若手研究者が一堂に会し、それぞれの研究成果を発表すると共に厳しく討論する場として行われており、今回で第4回目にあたります。2009年度は10月28日から29日にかけて、シンガポール、中国、韓国から、計5名の若手研究者を招聘するとともに、国内の9名の若手研究者も併せて招聘し、計14名の招

待講演を行い、また、ポスター発表24件を行いました。本シンポジウムは、有機合成、高分子合成、機能性物質合成の大きく3つの分野から構成され、大井教授、Prof. Xie、山本助教、河内准教授、Prof. Tan、桑野教授、Prof. Yuからは、それぞれ遷移金属触媒や有機触媒を利用した高効率の有機合成反応、触媒反応に関する講演を、上外垣教授、甲斐氏には、遷移金属触媒を用いた制御されたラジカル重合反応の開発とその

応用に関する講演を、佐藤教授、稲垣助教、Prof. Lee、Prof. Jeong、深澤助教には、それぞれ光や磁気特性を有する機能性分子、ナノ粒子の合成とその機能物質としての応用に関する講演をいただき、それぞれ一般参加者を交えた活発な議論が行われました。また、ポスターセッションにおいても、主に国内の若手研究者により最新の有機合成、触媒開発、合成への展開、などに関する発表が行われ、活発な討論が行われました。

06 第13回ケイ素化学協会シンポジウム

九州大学先端物質化学研究所 永島 英夫

- 【招待講演】 Daniel Kost (イスラエル ベン・グリオン大学 教授)
 "Molecular Rearrangements in Hexa- and Pentacoordinate Silicon Dichelate Complexes"
 Robert West (USA ウィスコンシン大学 教授)
 "Organosilicon Chemistry as a New Source of Chemical Diversity in Cancer Drug Design"
 Myong Euy Lee (九州工業大学 工学部物質工学科 教授)
 "Development of Surface Structure Controlled TiO₂ Photocatalysts"
 【受賞講演】 吉田 弘人 (広島大学 大学院工学研究科 准教授) "14族元素化合物と炭素-炭素不飽和型反応性中間体を用いた新反応開発"
 松本 英之 (群馬大学 大学院医学系研究科 教授) "特異な性質を有する有機ケイ素化合物の分子設計"
 石川 満夫 (広島大学 大学院工学研究科 名誉教授) "オルガノシリランの光化学"
 玉尾 皓平 (理化学研究所 基幹研究所所長) "有機ケイ素化学の有機合成化学および機能性物質科学への展開"
 【ピクニック講演】 金 仁華 ((財)川村理化学研究所 合成化学研究室長・工学博士)
 "生物模倣によるシリカ構築: ナノ構造体、ナノ薄膜及びそれらの応用"
 柿本 浩一 (九州大学大学院 応用力学研究所 教授)
 "Effective Polysilicon and Crystalline Silicon Production for Highly Efficient Solar Cells"
 岩本 武明 (東北大学 大学院理学研究科 教授)
 "安定シリレンを利用した不飽和ケイ素化合物の合成と構造"
 【ショートプレゼンテーション】 全9件
 【ポスター発表】 全88件

本シンポジウムはケイ素化学協会が主催する唯一のシンポジウムとして、ケイ素化学に携わる全国の大学・企業の研究者や大学院生が一堂に会し、それぞれの研究成果を発表すると共に厳しく討論する場として協会発足当初から毎年行われています。2009年度は、10月30日から31日にかけて開催され、受賞講演4件、招待講演6件、ショートトーク9件、ポスター発表88件が行われました。奨励賞の吉田先生にはケイ素を中心とした14族元素化合物を用いた新反応開発、協会賞の松本先生と玉尾先生には特異な化学的・物理的性質を有する有機ケイ素化合物の分子設計、ならびに有機ケイ素化学

の有機合成化学および機能性物質科学への展開、功績賞の石川先生にはオルガノシリランの熱および光化学的挙動と機能性材料への展開について講演していただきました。招待講演のKost先生には5および6配位キレート型ケイ素化合物の転位反応、金博士には様々なナノ構造を有するシリカ構造体の構築、柿本先生には太陽電池のためのシリコン誘導体について、West先生には有機ケイ素化学を基盤とする制癌剤デザイン、岩本先生には安定シリレンからの不飽和ケイ素化合物の合成と構造、Lee先生には一連のシリレンの合成と反応性について講演していただきました。



07 ユビキタス情報化社会を支える光利用有機・高分子化学 第2回 国際シンポジウム

九州大学先端物質化学研究所 菊池 裕嗣

- 【講演】 Ching Ting (台湾 Material and Chemical Research Labs/ITRI 副所長)
 "The Opportunities and Challenges of Tandem Solar Cell by Solution Process"
 藤田 克彦 (九州大学 先端物質化学研究所 准教授)
 "Organic Photovoltaic Cells Prepared by Evaporative Spray Deposition Using Ultradilute Solution -Structural Control and Their Device Property-"
 Xingsheng Xu (中国 中国科学院 Institute of Semiconductors 准教授)
 "Two-Photon Excited Fluorescence from Colloidal Quantum Dots on the Surface of SiN Photonic Crystals"